

慰霊団体 宮城版製作

被災地巡礼

教訓刻む

御朱印帳

東日本大震災の被災地で犠牲者を慰霊する巡礼の道づくりに取り組む一般社団法人「みちのく巡礼」(登米市)が、宮城県内版の御朱印帳を作った。震災の教訓を後世に伝えるため若者にも関わってもらおうと、聖ドミニコ学院高(仙台市青葉区)の3年生6人が製作に協力した。

みちのく巡礼は四国遍路をモデルに岩手、宮城、福島、福島の3県の寺

院をつなぐルートを整備する。現在の札所は岩手6、宮城33、福島3の計42寺院で、目標は計55寺院という。

御朱印帳は縦16センチ、横11センチで青を基調とした。正を斜めに重ねた紗綾形で仏教を、ステンドグラスをイメージしたイラストで同校のカトリックの精神をそれぞれ表した。各ページには寺院の名前と札所番号が記されている。

仙台・聖ドミニコ学院高生協力

伝承へ 若者に照準

生徒らは昨年8月、課外活動で仙台市の2寺院で巡礼を体験。震災当時の様子や宗教の講話を聞き、祈りの場を広げる活動に共感したという。法人理事の大出光一さん(67)が同校の非常勤講師で情報デザインを教えている縁もあり、製作に加わった。

生徒らが担当した表紙裏のイラストには巡礼者やハスの花に加え、宮城県を象徴する仙台七夕まつりの吹き流しやこけしをちりばめた。生徒の下絵を基に大出さんがデザインをまとめた。

22日に完成した御朱印帳を贈呈された生徒らは「巡礼に出かけたくなる」「若者だけでなく大人も使えそう」と喜んだ。活動を通して「震災後、気仙沼市の親戚宅に向かう際に見た泥やがれきの道

を思い出した」という山内歩美さん(18)は「貴重な経験ができた。震災を経験していない世代にも活動が伝わっていくといい」と話した。

みちのく巡礼総括理事の桜井史朗さん(79)「仙台市泉区」は「震災伝承や防災意識の啓発には若い力が必要だ。ぜひ若者に巡礼してもらいたい」と思いを託す。

1冊1500円。購入希望などの連絡先は事務局070(4484)7827。5月以降に宮城県内の各札所でも販売予定という。



①完成した「みちのく巡礼」の御朱印帳
②聖ドミニコ学院高生がデザインした表紙裏